

全国の半分以上 広島県内に存在

た、「土木の日」の催しで講演し、「都市中心部にこれだけ多数の雁木が残っている街は全国でも広島市だけ」と、まちづくりへの活用を訴え

馬場教授によると、国内の雁木は、岡山市の旭川沿いのように規模は大きいが単一でしか残っていないケースがほとんど。それに比べ京橋川雁木群は、幅二尺前後を中心とした生活用の雁木が二十尺ほどの間隔で連続して残る。「市民に川が身近だつた証拠。これほど残っているとは調査前に信じられなかつた」と希少性を指摘した。

広島市内で確認されている雁木は、太田川放水路や他の

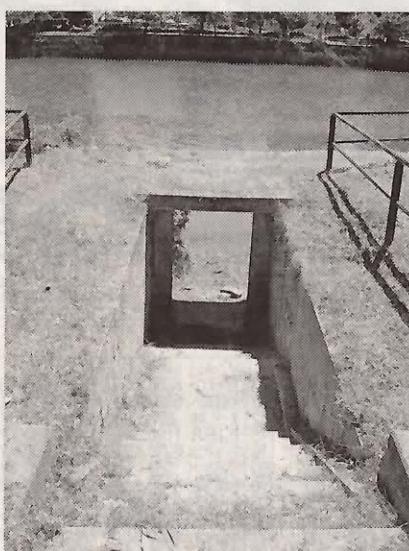
本年度選ばれた広島市の「京橋川雁木群」について、岡山大大学院の馬場俊介教授（土木遺産論）が広島市で

の「勝手口」として裏木戸を付けたものや、階段が折れ曲がる複雑な意匠のもの、上り口に天井石があるもののなど形と大きさはさまざまだ。

岡山大大学院教授が講演

雁木を「まちの顔」に

の北堀雁木（長さ約三百㍍）や、鞆の浦（福山市）にも残っている。「国内の雁木の三分以上が広島県にある。『五



選奨土木遺産に選ばれた「京橋川雁木群」の雁木の一つ。上り口の天井に石が渡してある (広島市中区橋本町)

特定非営利活動法人（NPO）
法人）「雁木組」（氏原睦子
理事長）が、雁木の間を行き
来する水上タクシーを二〇

贈
二
氏原理事長は「水上タクミ
ーに乗るたびに雁木の使い勝
手の良さに感銘する。先人の

重な遺産たる後の護岸工事では極力保存し景観形成に用したい」と話している。

分以上が広島県にある、「まちの顔」として活用しない手はない」と力を込めた。

や清掃イベントにも取り組み、雁木再発見の立役者にもなった。土木学会は功績に対し、催しの席上、感謝状を

い」と思いを語った。

の北堀雁木（長さ約一百㍍）
や、鞆の浦（福山市）にも残
っている。【国内の雁木の半
分】
雁木組は、築造年代の調査
〇四年から運航し、定着させ
ている点も評価された。

○ 知恵とセンス、保存に携わった地域の思いを大事にし、後も使いながら残していくこと